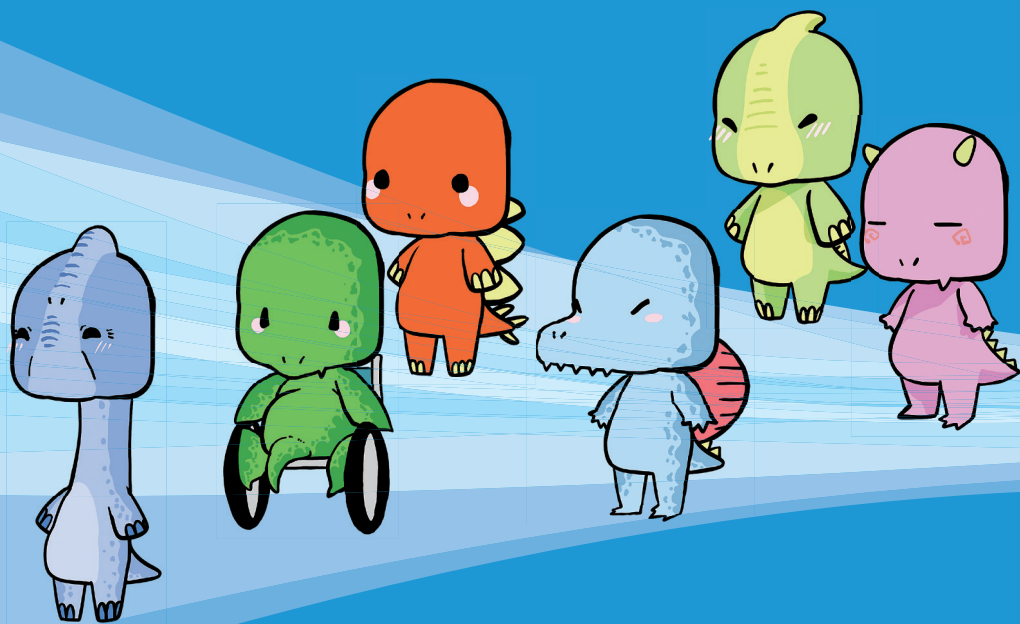


まんが まな
漫画で学べる

しょうがい ひと じぶん く
障害のある人が自分らしく暮らせる
じょうれい
まち条例



江戸川区



TCA

東京コミュニケーションアート専門学校

えどがわく きょうせいしゃかい じつげん む
江戸川区では、共生社会の実現に向けて、
令和 3年 7月 1日に

「ともに生きるまちを目指す条例」を施行しました。

あわせて、上記条例の障害のある人に関する個別条例として、

令和 5年 11月 6日に

「障害のある人が自分らしく暮らせるまち条例」を施行しました。

本冊子では、「障害のある人が自分らしく暮らせるまち条例」を

多くの方に知っていただけるように、

条例内の基本理念を漫画にまとめました。

【障害のある人が自分らしく暮らせるまち条例 前文】

すべての人は、障害の有無にかかわらず、自分らしく生きる権利を生まれながらに持っており、かけがえのない存在です。

我が国では、障害者の権利に関する条約の採択をきっかけに、障害のある人の人権を守るための法律が整えられてきました。

しかし、障害のある人は、今なお、日常生活や社会生活のあらゆる場面で、建物や設備、制度の利用に不便を感じたり、偏見、無関心など、障害による差別に苦しんだりしています。

また、十分な理解や尊重がないために、自分の思うような生活ができないなど、様々な生きづらさを感じながら暮らしている人がいます。

これらの生きづらさは、心身の機能の障害のみならず、社会における様々な障壁によって作り出されています。

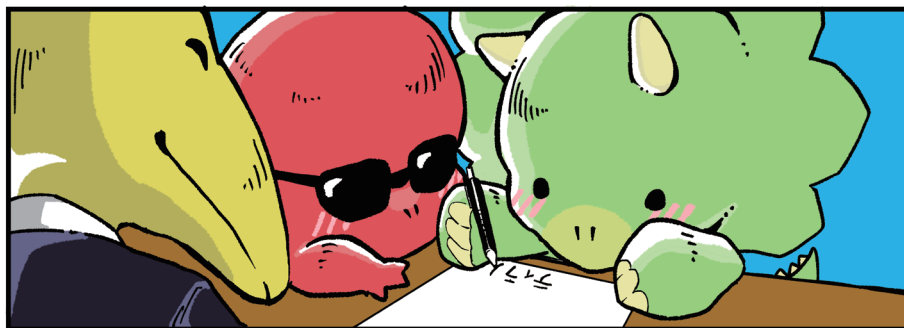
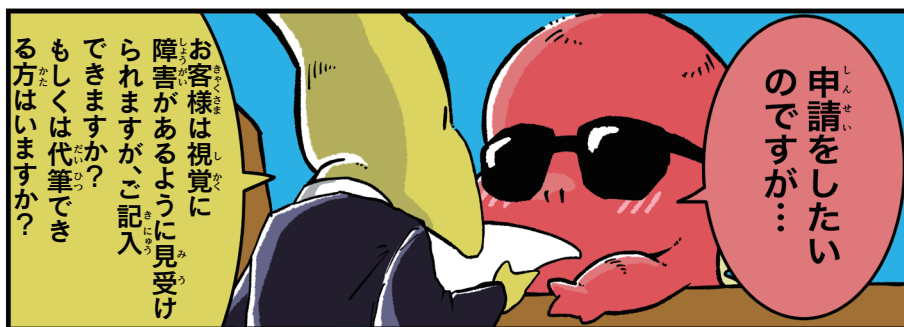
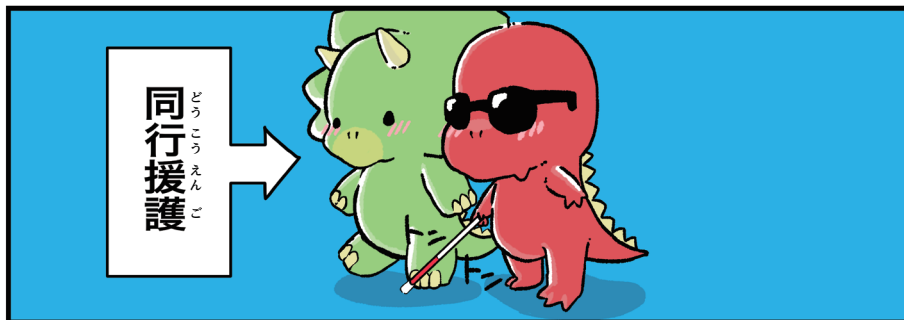
このような状況を変えていくためには、誰もが地域の一員として、障害に対する正しい理解を深め、障害のある人の立場に立つて、この障壁を取り除いていかなければなりません。

そして、障害のある人を日常的に支援し、悩みや苦しみを抱え孤立している家族などの支援も必要です。障害のある人への差別を解消し、一人ひとりの権利が尊重され、能力が十分に発揮される社会は、全ての人のため、暮らしやすい社会になります。

江戸川区は、障害者の権利に関する条例、ともに生きるまちを目指す条例などの考えをもとに、国や国際社会とも呼応し、障害の有無によって分け隔てられることなく、誰もが安心して自分らしく暮らせるまちの実現を目指し、この条例を定めます。

第三条 第一項

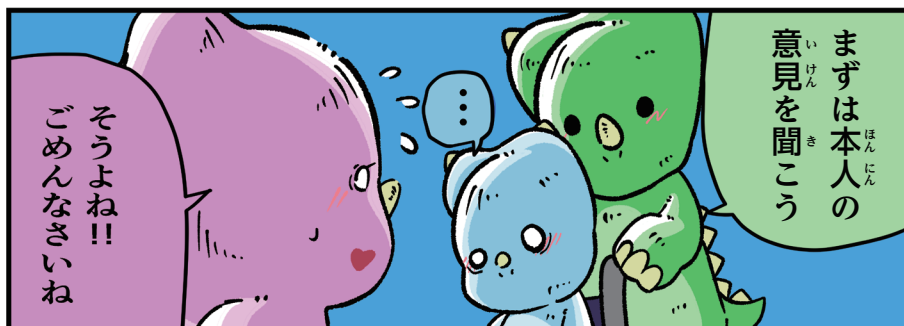
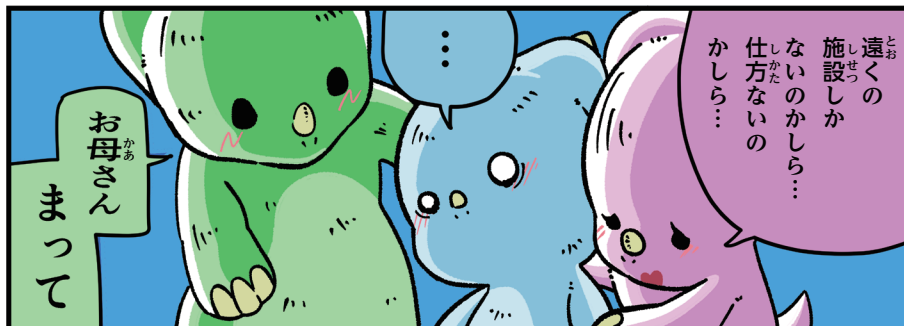
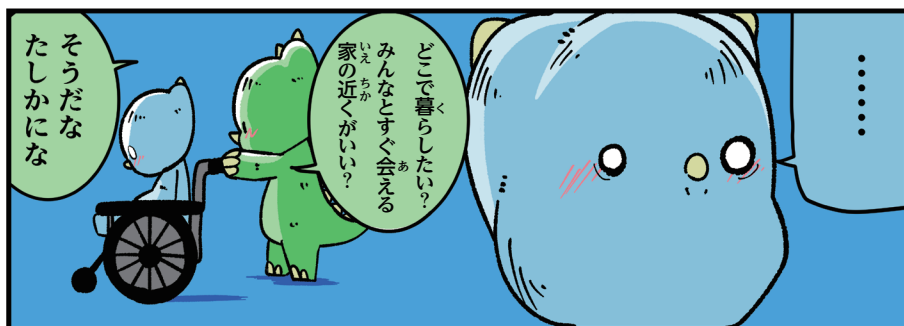
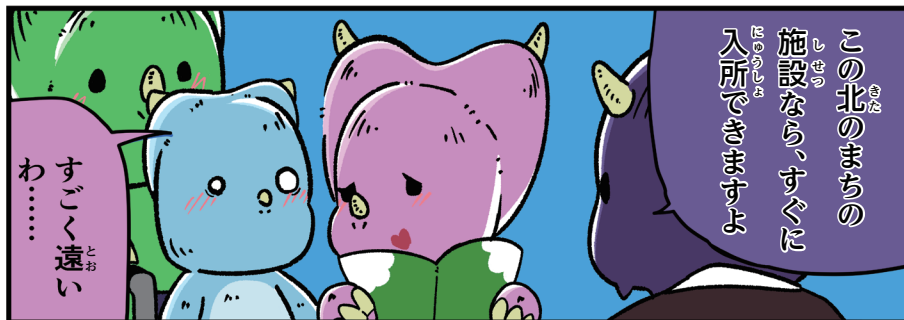
だれもが大切な人間^{たいせつ にんげん}として認められること。



※同行援護：視覚^{しかく}障害^{しょうがい}により、移動^{いどう}が難しい方の外出^{けだう}に一緒^{いっしょ}について行き、移動^{いどう}に必要な情報^{じょうほう}を提供^{ていきょう}する
障害者総合支援法^{しょうがいしゃそうごうしえんぽう}に基づくサービス（介護^{かいご}給付^{きゅうふ}）のこと。

第三条 第二項

自分らしさと自分の意見や決めたことが大切にされること。

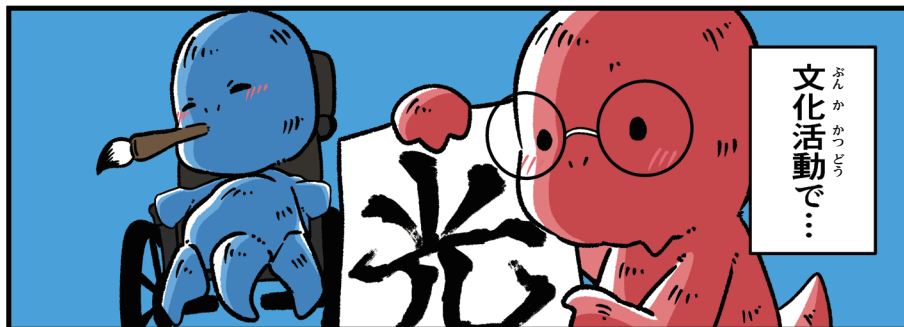
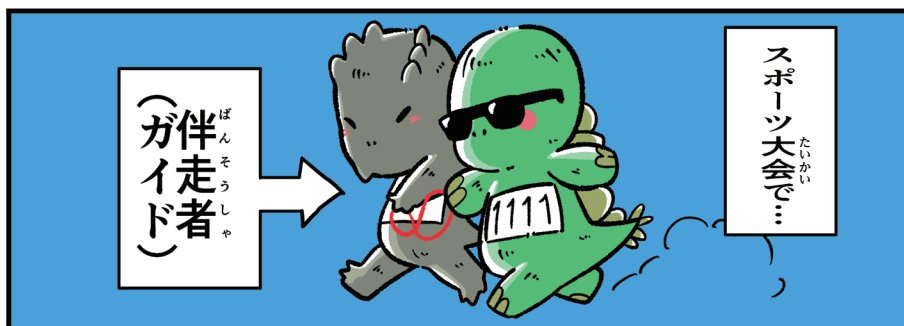
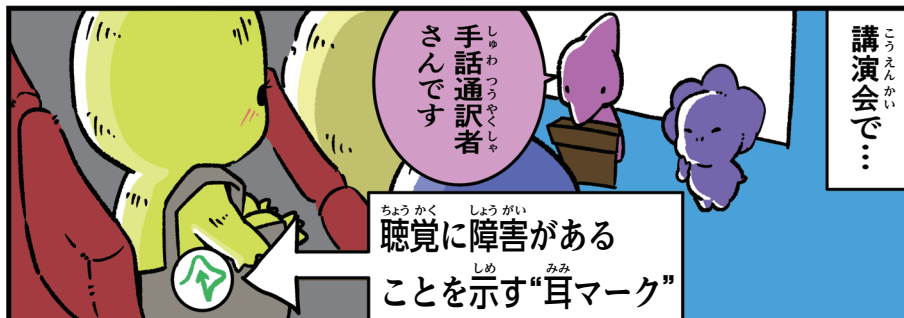


しょうがい りゆう さべつ
障害を理由に差別されないこと。



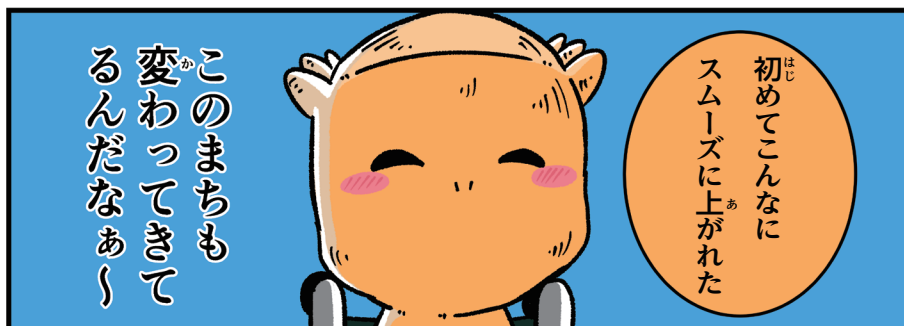
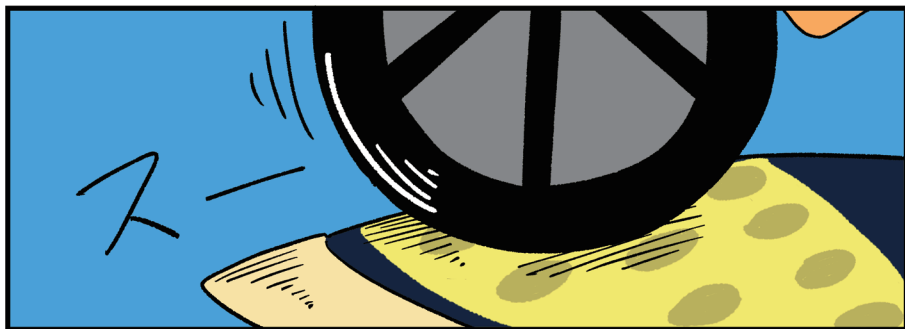
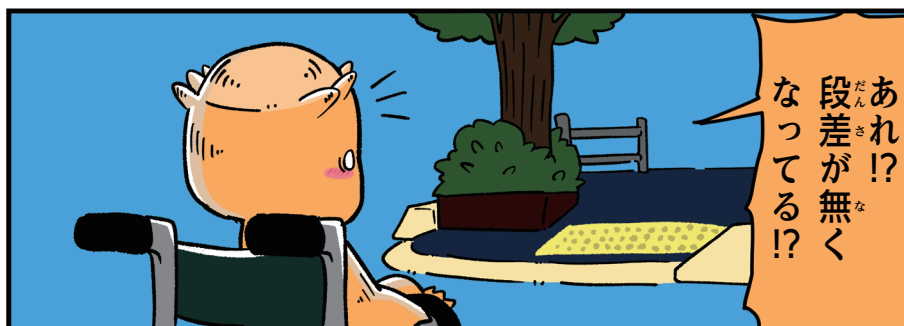
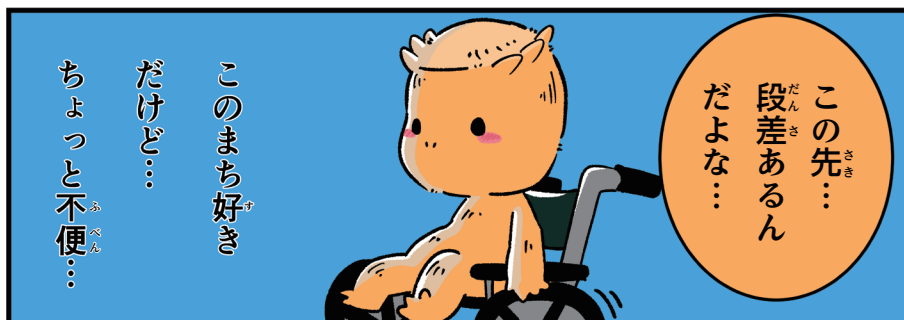
第三条 第四項

かつどう きかい
活動する機会（チャンス）があること。



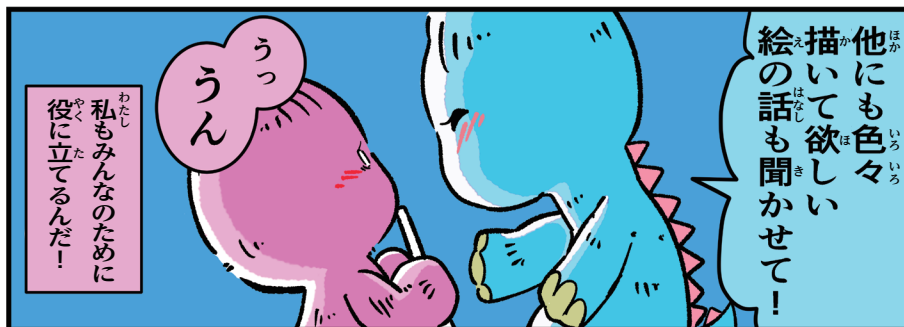
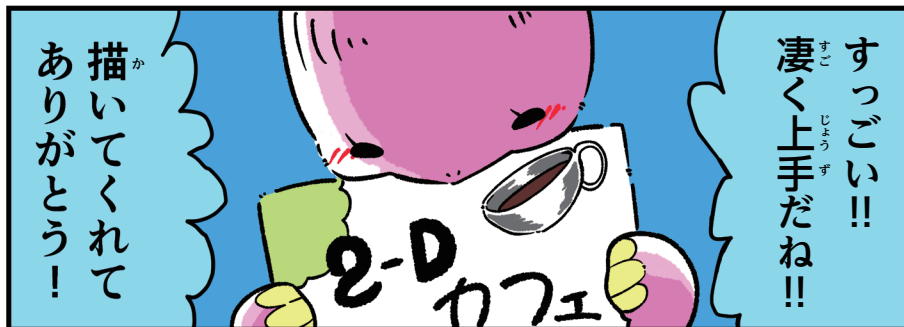
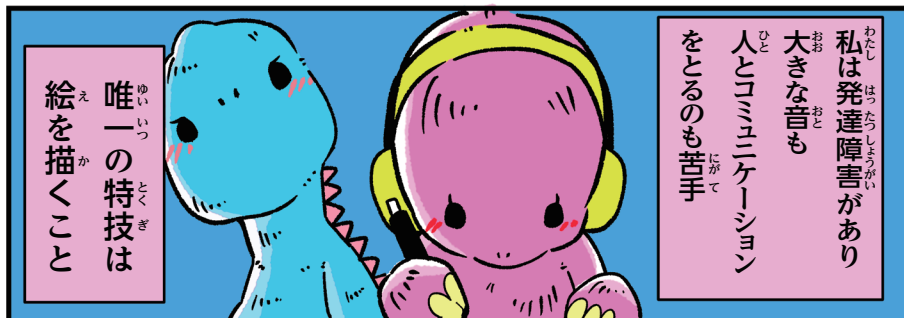
第三条 第五項

じぶん きぼう ばしょ あんしん く
自分の希望する場所で安心して暮らせること。



第三条 第六項

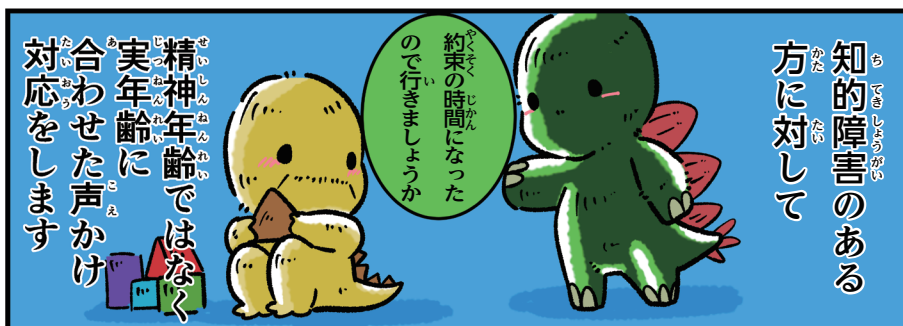
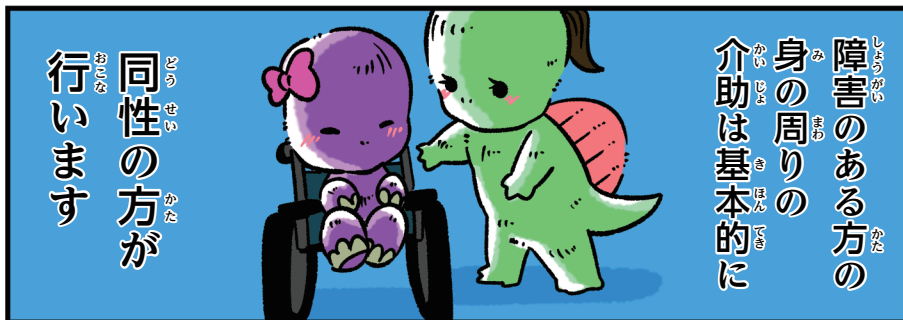
まわりの人^{ひと}と協力^{きょうりよく}して、障害^{しょうがい}のある人^{ひと}の力をのばすこと。



※発達障害: 脳の働き方の違いにより、物事のとらえ方や行動のパターンに違いがあり、そのために日常生活に支障のある状態のこと。

第三条 第七項

性別、年齢、状態を考慮すること。

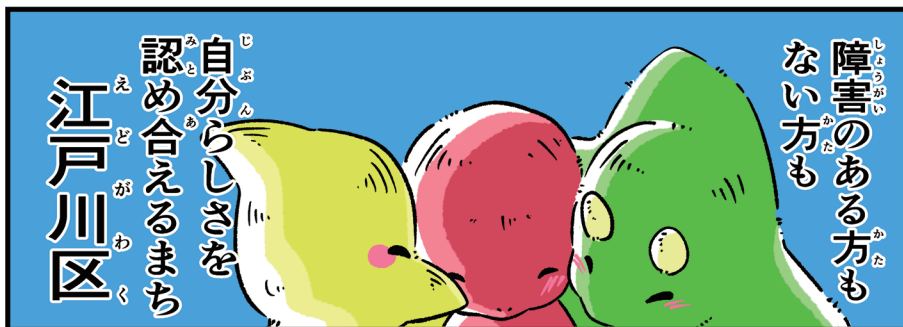
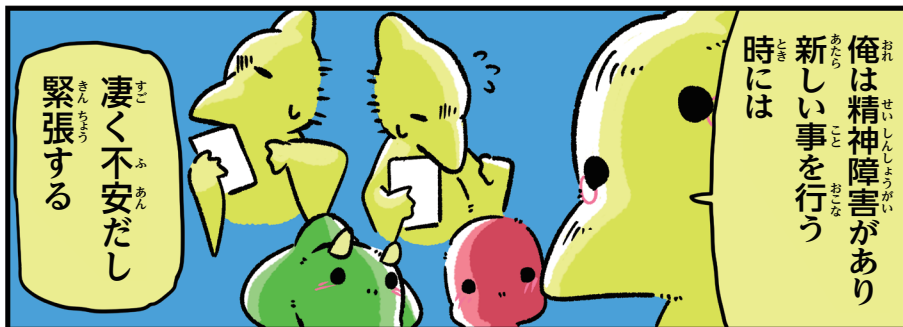
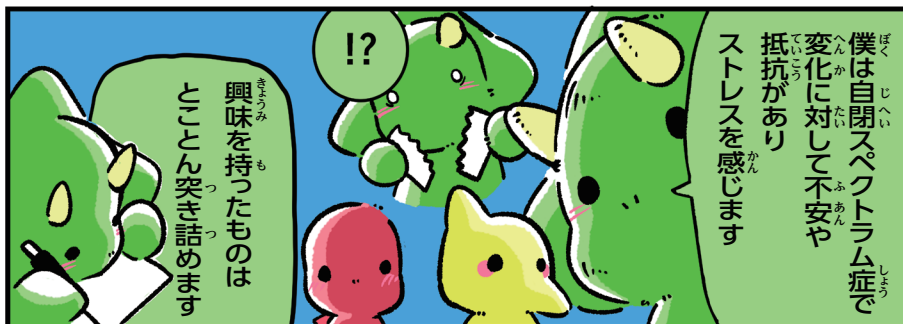
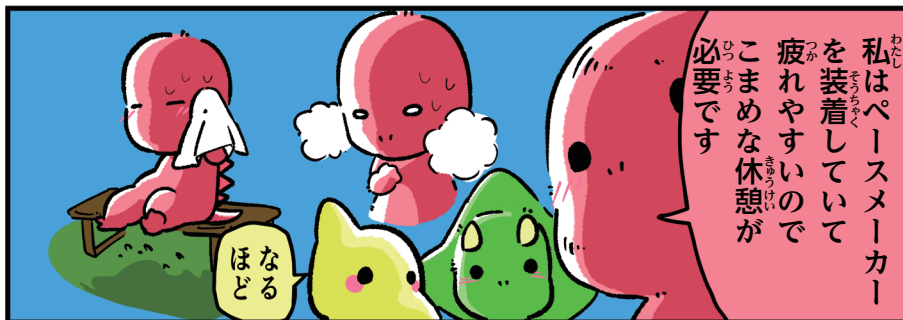


※精神年齢：こころの発達 の 程度を年齢で表したものの。

※高次脳機能障害：病気等で脳の一部分を損傷したことにより、脳の機能の一部に障害が起きた状態のこと。

第三条 第八項

自分らしく生きることができること。

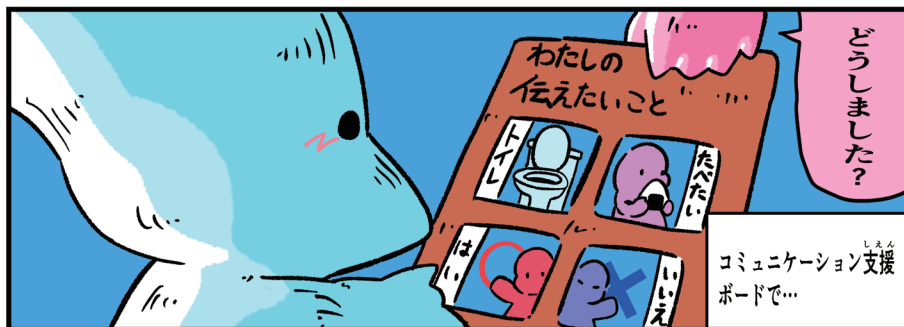
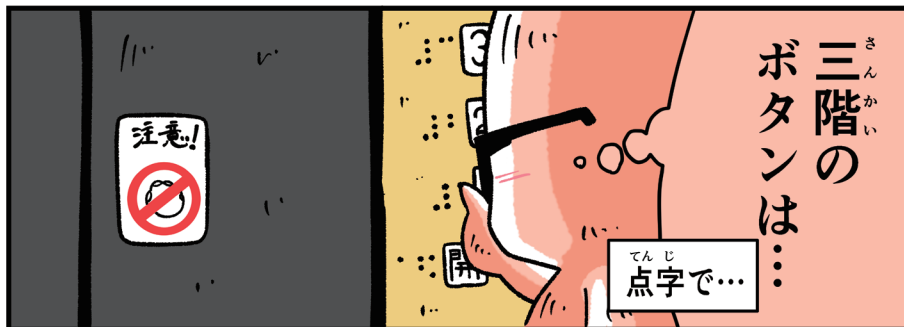
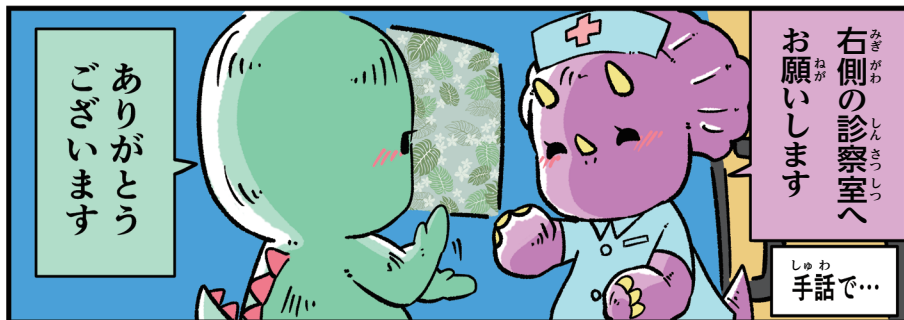


※ペースメーカー：人工的に電気刺激を行うことで、心臓のポンプとしての働きが止まることを予防するための機械のこと。

※自閉スペクトラム症：特定の人やもの、行動に強いこだわりがある等、さまざまな特性がみられる発達障害のひとつのこと。

第三条 第九項

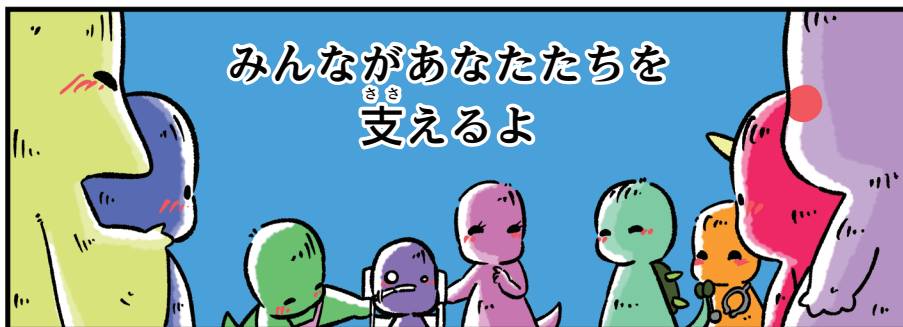
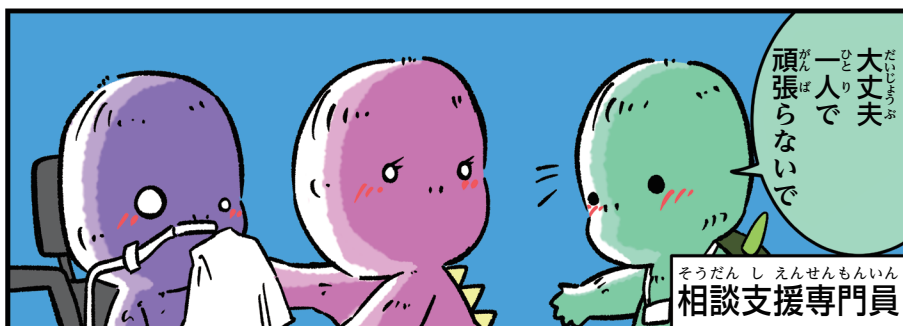
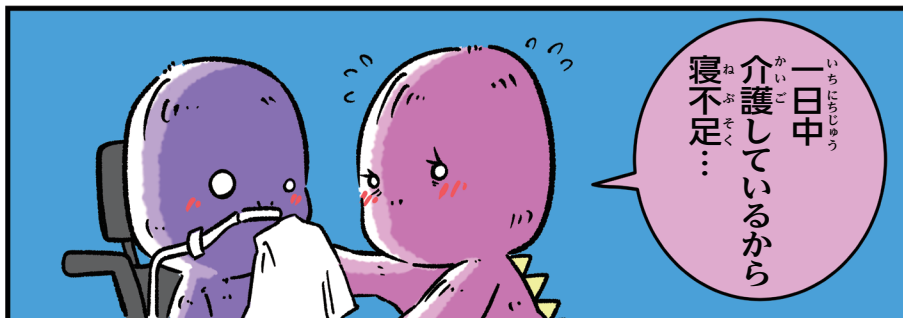
ことばを伝える方法^{つた}を選ぶことができること。



※コミュニケーション支援^{しえん}ボード^{つた}: 伝えたいことを指さして選ぶことができる図版^{ずばん}のこと。

第三条 第十項

しょうがい ひと かぞく こま たす
障害のある人とその家族が困ったときに助けてもらえること。



※相談支援専門員：障害のある方やその家族の相談・支援を行い、障害のある方が適切な支援を受けられるようにサポートすること。

【江戸川区 障害のある人が自分らしく暮らせるまち条例 基本理念】

第三条 障害のある人が安心して

自分らしく暮らせるまちの実現に向けた取組は、次に掲げる事項を最大限尊重して推進するものとする。

一 障害のある人において、等しく基本的人権を享有する個人としての尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい生活を保障される権利を有すること。

二 障害のある人において、自分ら及び自己決定が尊重され、円滑に意思決定支援を受けられること。

三 障害のある人が、障害を理由とする差別によって、その権利利益が侵害されないこと。

四 障害のある人が、地域社会を構成する一員として、社会、経済、

文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されること。

五 障害のある人が、可能な限り、自らの希望する場所で、安心して自分らしく暮らすことができること。

六 区、区民等及び事業者が連携し、障害のある人が、その障害の特性及び生活の実態に応じて、個人の能力及び個性を発揮できること。

七 障害のある人において、その性別、年齢、状態等に応じた適切な配慮がなされること。

八 障害のある人も障害のない人も、相互に理解し、多様性を認め合い、自分らしくいられること。

九 障害のある人が、可能な限り、言語（手話等を含む。以下同じ。）

その他の意思疎通のための手段

（点字、拡大文字、筆談、音声読み上げ、平易な言葉その他意思疎通に困難がある人において意思疎通をしやすくするためのあらゆる手段を含む。以下同じ。）についての選択の機会が確保されるとともに、情報の取得又は利用のための手段について選択の機会の拡大が図られること。

十 障害のある人及び日常生活又は社会生活を支える家族等が孤立しないよう、適切な配慮がなされること。

条例の全文は区HPをご覧ください。



令和7年3月発行

編集・発行 / 江戸川区

作画 / 久松 将太 (東京コミュニケーションアート専門学校)

金 優花 (東京コミュニケーションアート専門学校)

印刷 / 一般社団法人 EARTH BASE

本冊子は、一般社団法人東京都トラック協会江戸川支部からの寄付により作成しています。

この物語はフィクションであり、実際の出来事などとは一切関係ありません。

